資本論 24 章第 6 節「産業資本家の創世記」

月岡 大次郎
2014 年 11 月 6 日

産業資本家の創世記

S.777-778　資本家の登場と高利資本・商人資本
・「文句なし」の資本家は小親方，独立小手工業者，賃労働者により小資本家への転化によって発生
→「カタツムリの様な歩み」は 15 世紀末の商業的要求に照応したものではない
・高利資本と商人資本 … 資本主義的生産様式の時代以前にも「とにかく」資本として通用する

〇新たなマニュファクチュア
・「高利と商業とによって形成された貨幣資本は … 産業資本への転化をさまたげられた」
・この制限 (妨げ) は，封建家臣団の解体，農村民の収奪・追放によりなくなり，新たなマニュファクチュアが輸出港や田園の諸地点におこされた.

S.779-782　本源的蓄積における植民地制度
・「アメリカにおける金銀産地の発見，原住民の絶滅と奴隷化と鉱山への埋没，東インドの征服と略奪の開始，アフリカの商業的黒人狩猟場への転化 … が資本主義的生産時代の曙光を特徴づけている」
・そのあとに続くのが「ヨーロッパ諸国民の商業戦争」(スペイン・ポルトガル→オランダ→フランス・イギリス)

〇イギリスにおける本源的蓄積契機
・17 世紀末においては，植民制度，国債制度，近代的租税制度，および保護貿易制度として総括される
・資本主義的生産様式への転化過程を短縮するために，どの方法も，国家権力=社会の集中され組織された強力を使用
・オランダによるキリスト教的植民制度の例
・イギリスの東インド会社の例
→「本源的蓄積は 1 シリングの前貸しもなしに進行した」
↑インド沿岸航海，東インド諸島間の航海，インド内地の商業を会社の高級職員が独占．無から金がつくれるような条件で契約.
・西インド，メキシコ，東インドにおいて原住民の取り扱いは最も狂暴．アメリカにおいても同様.
〇植民制度と商業
・「植民制度は商業と航海とを温室的に育成」.「独占商会」は資本蓄積の強力な槓杆
・成長するマニュファクチュアにたいし，植民地は販売市場と，市場独占によって強化された蓄積とを保障
→「ヨーロッパの外で直接に略奪，奴隷化，強奪殺人によって獲得された財宝は，本国に還流し，そこで資本に転化」

・こんにちでは産業的覇権が商業的覇権をともなう←→本来のマニュファクチュア時代には，商業的覇権が優勢を与える
→それゆえ，当時には植民制度が主要な役割を演じた

S.782-784　国債制度 (と国際的信用制度)
・中世イタリアに起源を持つ国債制度はマニュファクチュア時代にヨーロッパに普及
・公債は本源的蓄積のもっとも強力な槓杆の一つ
→公債は，貨幣を資本に転化させ，国債は，株式会社やあらゆる種類の有価証券の取引や株式売買を勃興させた
・イングランド銀行は，国内の蓄蔵金属の不可避的な貯蔵所になり，商業信用全体の重心になった.

〇国際的信用制度
・「国際的信用制度は … あれこれの国民のもとでの本源的蓄積の隠れた源泉の一つをなしている」(ex. ヴェネツィアとオランダ，オランダとイギリス，イギリスと合衆国)

S.784　近代的租税制度
・国債は国家の収入を支柱とするので，近代的租税制度は国債制度の必然的補足物に.
・過重徴税は … むしろ原則である.
→農民や手工業者の全ての構成部分の暴力的収奪がおこる
→この制度の収奪的効果は保護貿易制度によって強められる

S.784-785　保護貿易制度
・「保護貿易制度は，製造業者を製造し，独立した労働者を収奪し，国民の生産手段及び生活手段を資本化し，古い生産様式から近代的生産様式への移行を強制的に短縮するための人工的な手段」
・属領においてはあらゆる産業が根こそぎにされた (ex. アイルランドの羊毛工業)

S.785-786　大工業時代の植民制度等と，児童労働
・「本来のマニュファクチュア時代のこれらの若芽は，大工業の幼年期中に巨大に繁茂する．大工業の誕生は大仕掛けなヘロデ的な児童誘拐によって祝われる」
・ランカシャー地方における児童労働の例

S.787-788　イギリス資本主義における奴隷制
・「奴隷貿易はリヴァプールにおける本源的蓄積の方法である」
・綿工業はイギリスに児童奴隷制を導入，合衆国の奴隷経営を商業的搾取制度に転化させる刺激を与えた

S.788
・労働者と労働諸条件との分離過程を完成
・社会的な生産手段および生活手段を資本に転化させ，人民大衆を自由な「労働貧民」に転化させる

疑問点

・(S.778)　トマス・ホジキンスの著作からの引用は，どういう意味で引用されているのか.「革命は法律によっては行われない」とはどういう意味か.
・(S.783) 「この銀行は，… 与えた最後の一銭にいたるまで依然として国民の永遠の債権者であった」とあるが，どの様な意味において債権者なのか.
・(S.784) 「つぎつぎに契約される負債の累積によって」とあるが，ここで想定されている契約とは何か.
・本節は「産業資本家の創世記」となっているが，注 238 には『「カテゴリー上の」意味では，借地農場経営者は工場主と同じように産業資本家である』とある.「カテゴリー上の」(Kategorischen) とはどの様な意味か．また，カテゴリー上同じだとすれば，4 節で言われている，資本主義的借地農場経営者の創世記との差異は.
・「ヨーロッパの外で直接に簒奪，… 財宝は本国に還流しそこで資本に転化した」といった記述にある様に，中世以来の高利資本や商人資本が本源的蓄積によってイギリスにおいて資本に転化した様に読める．(本節の初めには，いわゆる「分解」される様な形で出てくる資本家像が出てくるが，それは新たな「商業的要求に照応」するのもではなかったとして退けられる．) しかし，肝心の産業資本についての記述が見られない．綿工業資本の担い手としての産業資本家はどの様に出てきたと考えられているのか.
・本節のマルクスの記述を読むと，本源的蓄積過程における植民地制が，国債制度などの点との関連においても重視されているのが分かる．先進諸国における資本蓄積が途上国からの収奪無しには成立しないと主張するローザの議論をどう考えれば良いか.